

2025 年度 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 自己点検・評価報告書

2026 年 7 月 3 日

内部質保証・自己点検評価委員会

◆自己点検・評価体制における意見等

1. 学内からの視点

(1)プログラムの履修・修得状況

2024 年度より本プログラムを開設した。本プログラム対象となる科目は、「情報科学」(1 年次対象)ならびに「基礎統計学」(2 年次対象)の 2 科目で、いずれも必修科目である。

教員は、学生一人ひとりの履修状況・修得状況や出席状況を把握・確認できる環境を整備しており、課題の提出・共有には Google Classroom を導入している。

「情報科学」では、Google Classroom を活用して、科目担当教員が常に学生の課題提出状況を把握し、必要に応じて個別にサポートを行っている。

「基礎統計学」では、Google Classroom を活用して、科目担当教員がリフレクションペーパーの配布や回収をするとともに、常に学生の課題提出状況を把握している。リフレクションペーパーで記載された内容は科目担当教員が分析し、次週の授業時にフィードバックしている。

2025 年度本プログラムの修了者数は以下の通りである。

表 1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム修了者数

学部	2025 年度
リハビリテーション学部	73 名

(2)学修成果

対象科目を受講した学生全員が単位認定されている。定めた学修成果の達成状況についてプログラム修了者を対象にアンケート調査を実施し、69 名(回収率 94.5%)から回答が得られた。回答は次のとおりである。

1.情報科学・データサイエンスに関する基礎知識を体系的に理解できたと感じますか。

学修成果①:情報科学に関する基礎知識を体系的に修得し、主体的な学習を継続できる能力
「十分に身についた」または「概ね身についた」と回答した学生は全体の 86.9%であった。

2.データを分析し、その結果を根拠に基づいて説明する力が身についたと感じますか。

学修成果②:多様なデータを適切に分析し、根拠に基づき論理的に説明できる能力
「十分に身についた」または「概ね身についた」と回答した学生は全体の 72.5%であった。

3.本プログラムで学んだ内容を、今後の学修や臨床・研究の場面で活用できると感じますか。

学修成果③:データ分析・活用の知識・スキルを学習課題や臨床・研究に応用できる能力
「強く感じる」または「感じる」と回答した学生は全体の 78.3%であった。

4.現在の AI の特性や限界を理解し、医療分野で適切に活用する意識が高まったと感じますか。

学修成果④:AI に関する理解と、多角的な視点に基づく適切な利用

「大いに高まった」または「高まった」と回答した学生は全体の 76.8%であった。

以上の結果から、各学修成果は概ね達成されたと評価する。今後は、当該科目の習熟度や授業評価アンケート結果ならびに成績の分布も確認し、本教育プログラムに対して検証するとともに、評価・改善へつなげる。

(3)学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

プログラム修了者を対象に実施したアンケート調査では、本プログラム全体の内容について、「十分理解できた」または「概ね理解できた」と回答した学生は全体の 81.2%であった。また、「講義・演習の内容は、医療系分野を学ぶ学生として理解しやすい構成だったか」という設問に対しては、「非常に理解しやすかった」または「概ね理解しやすかった」と回答した学生は全体の 78.3%であった。医療系に特化した事例や課題設定が概ね有効であったと評価できる一方、自由記述では一部で「進度が早い」「内容が難しい」との意見もあり、さらなる理解度向上のためのさらなる改善が求められる。

(4)学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本教育プログラムの目的や学修の意義については、オリエンテーションや専用 Web サイトにて周知している。プログラム修了者を対象に実施したアンケートでは、「強く勧めたい」または「勧めたい」と回答した学生は全体の 71.0%であった。推奨理由としては、必要性や有効性を評価する意見がみられた。一方で、内容の難しさや分かりづらさを挙げる意見もみられた。

(5)全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本学では、本プログラムの申請科目はすべて必修科目として定めているため、全学生が履修することとなる。対象科目の授業やガイダンスを通じて、数理・データサイエンス・AI 教育の重要性を伝えるとともに、本学では、パソコン必修化としており、他の授業においてもデータ解析等の学修内容の充実を図ることで、学修意欲の向上につなげていく。

2. 学外からの視点

(1)教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本教育プログラムの開始は 2024 年度であり、プログラム修了者の卒業は 2027 年度以降となる。2028 年度以降は、キャリア開発委員会が実施する卒後アンケートの調査等において、教育プログラム修了者に対する企業等における評価や活躍の状況を把握するとともに、本プログラムの改善に活用する。

(2)産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

今後、大学の数理・データサイエンス・AI 教育への期待、協業の希望等について、関係する医療分野の関係者から意見聴取を行う。得られた意見は、今後の地域連携体制の構築やカリキュラムおよび教材の改善に活用し、教育内容の充実を図る。

3. 教育方法の工夫・改善

(1)教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本プログラム初の修了者(2024 年度入学生)は現在 3 年次在学中であり、就職・卒業は 2027 年度以降となるため、現時点において進路実績や企業等からの評価データはない。

今後の取組は、学生が就職活動や臨床実習の場において、本プログラムで身につけたデータ分析や情報活用の視点を自身の強みの一つとして意識できるよう、日頃の進路指導やキャリア支援の枠組みの中で促していく。また、将来的な評価の把握に向けて、キャリア開発委員会が実施する卒後アンケートを活用し、本プログラムの成果や評価を把握する仕組みを整備していく。

(2)産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

実社会や医療現場の視点を意識したプログラム運営に向けて、今後の教育内容や方法を検討していく。修了者アンケートの自由記述において「内容が難しい」といった意見が一部で見られたことを受け、まずは日々の授業において学生の理解度や進度を丁寧に確認しながら、着実に授業を進めることに注力する。

また、産業界や臨床現場からの意見集約については、学内の委員会や会議等の場において、医療分野の関係者から数理・データサイエンス教育への期待等について広く情報を聴取する機会を設け、その結果をプログラムや教育方法の改善に繋げていく。

4. 総括

本学リハビリテーション学部において 2024 年度より導入した「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」は、2025 年度にすべての対象科目の開講を完了し、初のプログラム修了者 73 名を輩出した。

修了者を対象としたアンケートでは、各学修成果においておおむね 7 割から 8 割の学生が「身についた」と回答しており、Google Classroom を活用した個別支援や、リフレクションペーパーを通じた授業へのフィードバックといった現在の教育体制は、初年度の取組みとして

一定の役割を果たしたものと考えられる。

一方で、アンケート調査では授業の内容を少し難しく感じた学生への支援の充実が必要なことがわかった。また、修了生がまだ卒業していないため卒業後の状況を評価する段階に至っていない。今後は、プログラム修了者が日々の学習や卒業研究に取り組む中で、本プログラムで修得したデータ分析や情報活用を活かせる教育内容の充実を図る。また、卒業後の状況の把握についても、焦らずに既存の卒後アンケートなどを活用しながら、どのような方法ができるかを運営責任者ならびに教育運営委員会において検討を進めていく。

以上

付則

本プログラムの自己点検・評価を行う「自己点検・評価委員会」は令和 8 年 6 月 9 日より「内部質保証・自己点検評価委員会」に名称変更しました。